

シンガポールで学び、町の未来を考える

～頭を使って国を富ませる凄い国～

令和8年度の関東町村会海外研修視察に、群馬県から川場村の外山村長とともに参加をさせていただきました。関東町村会から計11名の町村長が参加しました。

今回の視察先であるシンガポールは、北緯約1.3度、東経約103.8度に位置する赤道直下の国です。日本との時差はわずか1時間で、シンガポールの方が日本より1時間遅れています。面積は約700平方キロメートルで、東京23区より少し広い程度です。このような小さな国が、なぜ世界有数の都市国家へと発展したのでしょうか。



【シンガポールの成り立ち】

シンガポールはかつてマレーシアの一部でしたが、1965年8月9日に分離独立し、シンガポール共和国となりました。建国の父と呼ばれるリー・クアンユー氏（初代首相）は、独立後も1990年まで首相を務め、貧しい港町だったシンガポールを、治安が良く経済的に豊かな都市国家へと発展させる礎を築きました。

【日本は世界から取り残されます】

シンガポールは資源に恵まれない国なので、国民一人ひとりが国づくりに真剣に取り組んでいます。国が世界に飲み込まれないように教育に力を注ぎ、世界一を目指す高度な ICT 教育をしています。教育は人づくりの基本であるとひしひしと伝わってきました。

現地では、スパゲッティの値段は 2~3 千円、チキンライスが 4,500 円と物価の高さを実感し、日本経済の現状について改めて考えさせられました。

シンガポールを見たときに我が国を思えば、日本は遅れていると言わざるを得ません。行政のデジタル化も進み、どの分野においても国の将来を見据えた取り組みが進められていました。



【NUS(ナショナル・ユニバース・シンガポール)にて川場村外山村長と私】

【社会構造を変えなければ生き残れない】

シンガポールの税制は法人税や所得税が比較的安く、相続税や贈与税を設けない等、税負担を軽くすることで世界中の企業や投資を呼び込んでビジネスをしやすい環境を作り、経済成長に繋がっています。また、国の人口約 600 万人に対し、外国からの観光客数は通年で約 1400 万人と国民の倍以上が訪れています。世界中から企業や投資、人材、観光客が集まり、国全体が活気に満ちています。資源に恵まれないからこそ知恵を生かし、国を豊かにしていることがよく分かりました。



【NCS(シンガポールの中核の情報処理会社)前で】

また、赤道直下でありながら比較的涼しく、ビルが建ち並ぶ国ですが、地震が少ないという地理的条件もあります。カジノが2カ所あり、屋上に船の形を

した構造物がある象徴的なマリーナベイ・サンズがあり、世界から注目される都市づくりを積極的に進めていることが印象的でした。



【ポンゴル・エコスマートタウン内での視察の様子】

私は、シンガポール建国の父・リー・クアンユー氏の国家観に共感する点があり、学ぶべき点も多いと感じました。明和町で「オールインワンのまちづくり」を掲げて進めてきましたが、今後も人への投資を進め、さらに町を発展させていかなければならないと思いました。

【充実した海外行政視察】

研修初日は、飛行機で約5,800キロメートルを移動しシンガポールへ到着しました。



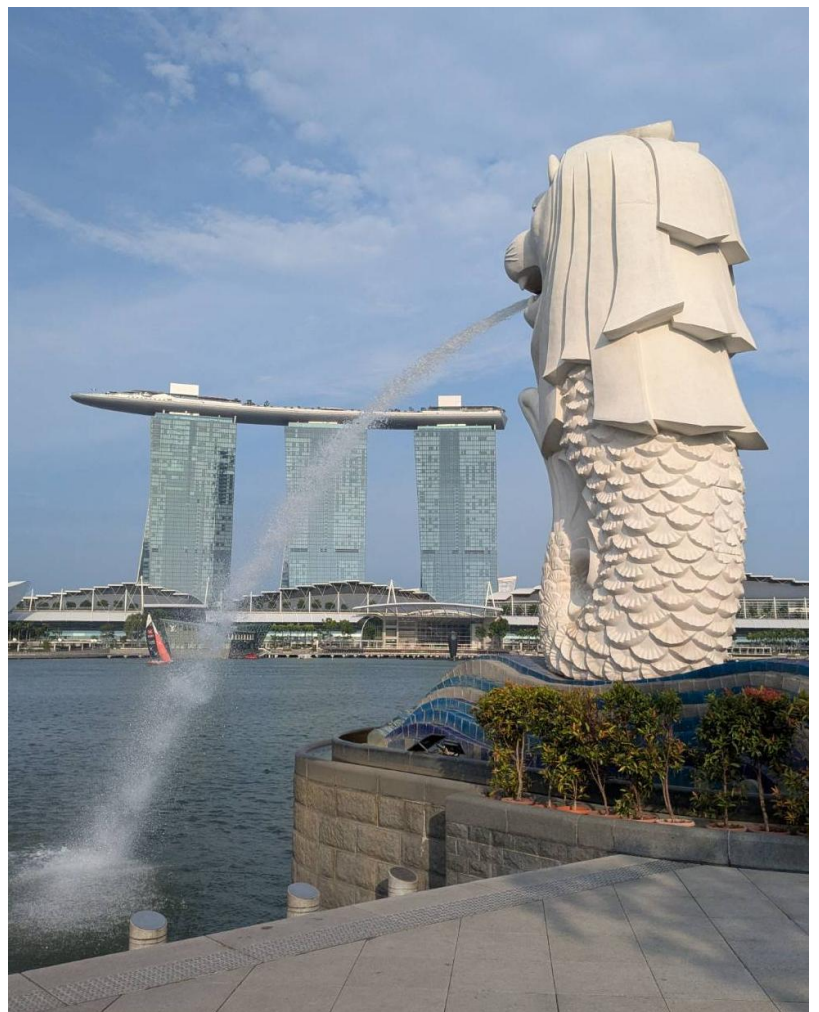
2日目午前は、世界トップレベルのDXを目指すNCSというコンピューターシステム会社で研修を受けました。午後は、ナショナルユニバーシティ・オブ・シンガポール大学でベンチャー企業のグローバルシチズンからICT教育について学びました。

3日目午前は、プンゴル・エコスマートタウンで大学と町が一体となり高齢者と多世代が共に暮らす学園都市を視察しました。午後は、チャンギ国際空港で生体認証をはじめとする先進技術を活用したサービスを視察しました。

4日目午前は、マスターカードエクスペリアセンターで将来のカードのあり方について研修しました。午後は、シリコンバレー・オブ・シンガポールでスタートアップ企業に対するシンガポール政府の支援について学びました。

今回の視察では、どの分野においても世界一を目指す姿勢が徹底されており、大変印象に残りました。

マリーナベイ・サンズやシンガポール・フライヤーを見学する時間はありませんでしたが、シンガポールの発想力と実行力には大変感銘を受けました。同時に、日本における私たち政治家の責務は大変重要な局面を迎えていることを改めて実感しました。この海外行政視察で得た多くの気づきや学びを、今後の町政運営に生かし、明和町のさらなる発展につなげていきたいと考えています。



【マリーナベイ・サンズとマーライオン】

令和8年7月31日

明和町長

富塚もとすけ